鉄鋼新聞の“防災・減災、国土強靭化に貢献する有力企業”に掲載されました

2020 年 9 月 7 日付けの鉄鋼新聞の ”防災・減災、国土強靭化に貢献する有力企業”の特集で記事が掲載されました。

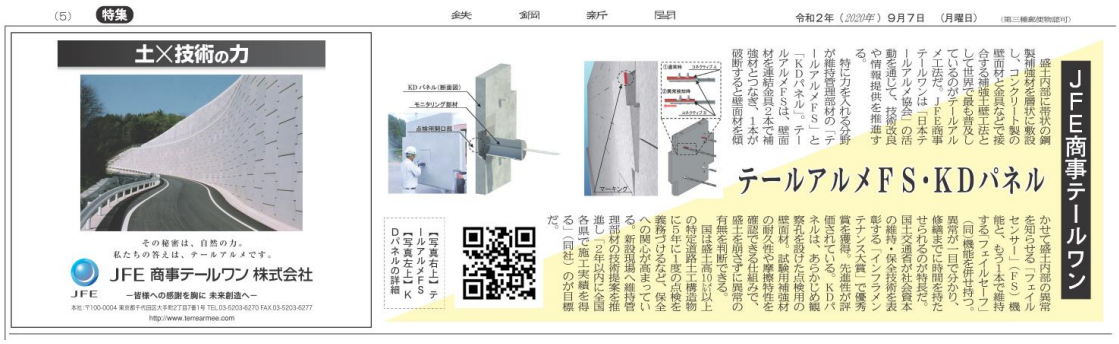
維持管理部材である「テールアルメ FS」と「KD パネル」を紹介しています。

2020 年 9 月 7 日鉄鋼新聞 5 面

防災・減災、国土強靭化に貢献する有力企業

～注目集める高機能製品・技術を紹介～

近年、大地震や台風・集中豪雨、雪害などの自然災害が日本列島各地を襲っている。昨年9～10月に列島を直撃した台風15号（令和元年房総半島台風）と台風19号（令和元年東日本台風）は未曾有の被害をもたらした。今年に入ってからも「令和２年７月豪雨」が九州、中部地区を襲い、一部地域はいまだ復興もままならない状況。来年３月には東日本大震災発生から10年になるが、列島各地で群発地震は相次いでおり、南海トラフ地震をはじめとした巨大地震の発生確率は年々高まっている。「数十年に一度」と言われるような自然災害が毎年のように起こっている現在、災害に備えたインフラ整備や企業の対策は急務だ。鉄鋼業界、関連企業では、これまでも優れたメンテナンス性や耐久性、短工期などの特徴を持つ防災・減災関連製品を開発・市場投入し、災害対策に貢献してきた。本特集では、そうした災害に強いインフラ整備や企業の災害対策に貢献する製品、技術、サービスに焦点を当て、今注目される「日本の自然災害対策に貢献する有力鉄鋼関連企業」を紹介する。（広告掲載は順不同、特集記事中のＱＲコードはデンソーウェーブの登録商標）



（5） 特集 鉄鋼新聞 令和2年（2020年）9月7日（月曜日）（第三種郵便物認可）

土×技術の力

その秘密は、自然の力。
私たちの答えは、テールアルメです。

JFE 商事テールワン 株式会社
JFE
―皆様への感謝を胸に 未来創造へ―
本社：〒100-0004 東京都千代田区大手町2丁目2番1号 TEL.03-5203-6270 FAX.03-5203-6277
http://www.terreamhee.com

JFE商事テールワン

盛土内部に帯状の鋼製補強材を層状に敷設し、コンクリート製の壁面材と金具などで接合する補強土壁工法として世界で最も普及しているのがテールアルメ工法だ。JFE商事テールワンは「日本テールアルメ協会」の活動を通じて、技術改良や情報提供を推進する。

特に力を入れる分野が維持管理部材の「テールアルメＦＳ」と「ＫＤパネル」。テールアルメＦＳは、壁面材を連結金具２本で補強材とつなぐ。１本が破断すると壁面材を傾かせて盛土内部の異常を知らせる「フェイルセンサー」（ＦＳ）機能と、もう１本で維持する「フェイルセーフ」（同機能を併せ持つ）。異常が一目で分かり、修繕まで に時間を待たせられるのが特長だ。国土交通省が社会資本の維持・保全技術を表彰する「インフラメンテナンス大賞」で優秀賞を獲得。先進性が評価されている。ＫＤパネルは、あらかじめ観察孔を設けた点検用の壁面材。試験用補強材の耐久性や摩擦特性を確認できる仕組みで、盛土を崩さずに異常の有無を判断できる。

国は盛土高10以上の特定道路土工構造物に5年に1度の点検を義務づけるなど、保全への関心が高まっている。新設現場へ維持管理部材の技術提案を推進し「2年以内に全国各県で施工実績を得る」（同社）のが目標だ。

テールアルメＦＳ・ＫＤパネル

【写真右上】テールアルメＦＳ
【写真左上】ＫＤパネルの詳細

JFE商事テールワン

かせて盛土内部の異常を知らせる「フェイルセンサー」（ＦＳ）機能と、もう１本で維持する「フェイルセーフ」（同機能を併せ持つ）。異常が一目で分かり、修繕まで に時間を待たせられるのが特長だ。国土交通省が社会資本の維持・保全技術を表彰する「インフラメンテナンス大賞」で優秀賞を獲得。先進性が評価されている。ＫＤパネルは、あらかじめ観察孔を設けた点検用の壁面材。試験用補強材の耐久性や摩擦特性を確認できる仕組みで、盛土を崩さずに異常の有無を判断できる。

国は盛土高10以上の特定道路土工構造物に5年に1度の点検を義務づけるなど、保全への関心が高まっている。新設現場へ維持管理部材の技術提案を推進し「2年以内に全国各県で施工実績を得る」（同社）のが目標だ。

【写真右上】テールアルメＦＳ
【写真左上】ＫＤパネルの詳細